

## 第4回総合球技場基本計画検討委員会 議事録

日 時	平成30年7月23日(月)13:30~16:00
場 所	山梨県庁 防災新館201会議室
出席者	(委員)清水委員長、飯沼委員、佐久間委員、佐藤委員、土屋委員、 長倉委員、布施委員、傍士委員、松野委員、三ツ谷委員 (山梨県)総合政策部長、総合政策部理事、総合政策部次長、 リニア環境未来都市推進室長、エネルギー政策課長、都市計画課長、 スポーツ健康課長

### 1 開会

事務局

本日はご多忙のところご出席いただき誠にありがとうございます。これより第4回総合球技場基本計画検討委員会を開催いたします。本日は竹内委員が所用のためご欠席です。

### 2 総合政策部長あいさつ

事務局

委員会の開催にあたり山梨県総合政策部長よりご挨拶申し上げます。

総合政策部長

本日はお忙しい中、また大変暑い中、ご出席いただきありがとうございます。本日は、後ほどご講演いただきますオフィスショウの池田代表にご出席いただいております。池田氏はスタジアム等の芝生の管理において日本の第一人者であります。有意義なお話をお聞きできると期待しています。

本委員会においては、他県の球技場視察などを含めこれまで検討を進めてきました。この度県民アンケート調査を実施し、予想を上回る2,500以上のご回答をいただきました。県民の皆様が大きな期待を寄せていることの表れと受け止めています。本日はこのアンケート調査の結果も踏まえ附帯機能につき、更にご検討いただきたいと考えています。本日はよろしく願いいたします。

### 3 委員長あいさつ

事務局

続きまして清水委員長よりご挨拶お願いいたします。

委員長

今日はたいへん暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

先日ロシアワールドカップが開催され、私も日本戦はすべて観戦した。スポーツが人々に対して訴えかける力が大きいことも改めて感じたところ。

本日は球技場の附帯機能についてご議論いただきたい。皆様方の忌憚のないご意見をお聞きしたい。よろしく願いいたします。

#### 4 講演「芝生管理の視点から総合球技場において検討すべきこと」

講師：オフィスショウ 代表 池田 省治 氏

(事務局)(講師のご紹介)

(講師による講演)

#### 5 議事

##### (1) 総合球技場の附帯機能に係るアンケート調査結果について

事務局

議事の進行については、委員会設置要綱第4条第1項の規定により清水委員長にお願いする。

委員長

まず事務局より資料の説明をお願いしたい。

(資料1について事務局より説明)

委員長

ありがとうございます。何かご質問ご意見ありましたらお願いしたい。

委員

最後の自由記入のところ、こちらの集計に書いていない面白いアイデアはあるか。

事務局

まとめたものが資料1。個性的な意見もあったが、ご紹介に至るものはなかった。

委員長

例えば、工夫すれば富士山が見える配置にはできるのか。

事務局

申し訳ないが、現在の第三駐車場の位置からは、富士山は見えない。

委員

アリーナ（小規模体育施設）の要望があったということだが、大きさはどの程度か。

事務局

今回大きさについては提示しなかったが、バレー、バスケットが一面取れる大きさを想定し質問させていただいた。

委員長

三週間足らずで 2,500 を超える回答をいただいた中、事務局には手際よく対応していただいた。

## （２） アンケート調査結果を踏まえた附帯機能の事例

（資料 2 について事務局より説明）

委員長

ありがとうございました。ご意見を伺いたい。

委員

先日の西日本の豪雨の報道にて、避難された方々の避難所はひどい環境の体育館しかなかった。そこで、防災機能がこの施設で整い、トイレやシャワーも整備できれば、何かの災害により避難の必要が出た場合に対応ができるのではないかと思った。

日本初の発想を打ち出せたらと思い、考えたことがある。岡山のフルーツカレンダーを参考にお配りした。岡山と山梨は果物の生産で競っているが、岡山では商工会議所を中心にカレンダーを作成し、岡山市内の 50 店舗以上のカフェでオリジナルのフルーツパフェを提供している。岡山の人に話を聞くと、うちは生産地だという話しか聞こえてこない。しかしながら生産地で食べてこそ意味がある。これは一番旬なものを消費できる場所という情報発信である。鹿児島勤務の際、指宿のそら豆が有名と聞いて行ったが、これはすべて東京に行く商品だと言われ、地元ではおいしく食べられるものは売っていなかった。生産地としての発信だけでなく、消費地としての発信ができると良い。ミシュランで評価されたヨーロッパのレストランはほとんどが田舎にあり、そこで取れたものはそこに行かないと食べられないという仕組みがある。

もうひとつの資料としてヴァンフォーレ甲府が募集した「夢見る総合球技場 絵画入選作品」をお配りしている。子どもたちの夢の実現ということで、エコの提言がされたと聞

いたので思い出したが、エコなリユースカップの利用を推進してはどうか。紙コップの消費を抑えようというものである。ワールドカップでも展開した。Jリーグでも一部のクラブしかやっていないが、ぜひ山梨からこういう動きをスタートしていただきたい。これがJリーグ全体への動きへ繋がり、オリンピックにも繋がっていくと思う。これは子どもたちの未来の環境へのメッセージにも良い。

簡単なことだが、こういったことで、県民全体、アウェーの方全体の活動を支援していただきたい。

#### 委員長

ありがとうございます。防災機能について、小瀬スポーツ公園が実際に防災拠点となっているかについて、事務局よりご説明をお願いしたい。

#### 事務局

小瀬スポーツ公園については、防災拠点として自衛隊の活動拠点等の様々な用途が組み込まれている。県民アンケートには防災部分を入れなかったが、附帯機能を検討する上で防災機能は非常に重要な視点と考えている。委員のお話にもあったトイレやシャワーについても、整備により何かの際に活用できるという点は非常にありがたいご意見である。防災の視点について、小瀬スポーツ公園全体がどうなっているか、整備した場合にどうなり得るかについては今後ご説明したい。

#### 委員長

トイレとシャワーが多くあることにより芝生の維持管理にも繋がる。また、日本初、山梨らしさも大事である。

#### 委員

防災に関しては、海外の災害発生時の対応状況を見ると、テントを多用すると聞いた。スタジアムにおいてもテントを並べてシャワー等を整備すれば、心的ストレスやそれによる二次災害も軽減できるのではないか。小瀬スポーツ公園の利用状況を見ても、ランニングや自転車等も多いが、汗をかいたときに気軽にシャワーを利用できる場所がない。日頃から充実したシャワー機能を整備することもニーズがあるのではないか。

#### 委員

先日スポーツ庁において、新たなスポーツビジネス等の創出にむけた市場動向調査として、ITや新たなテクノロジーを効果的に活用した先進事例調査等を実施して報告書を公表した。今回のアンケートを見ても、飲食店併設の希望等があり、スタジアムの中でのライブビューイングや、大型映像装置で試合を観ながら飲食ができるスポーツカフェ等も考え

られるのではないか。

フィットネスクラブを併設するというご意見もあり、甲府市や山梨県内の他の市にも多くのフィットネスクラブやスポーツ施設があると思うが、イギリスではこういった施設のデータを一元管理している事例がある。どこが空いている、どこが安いなどが網羅的にわかり、利用促進に繋がっている。今回のスタジアム建設を機にこういったデータ管理・活用に取り組んでいくのもひとつのポイントと考える。

また、ミュージアム併設の希望等もあったが、ただトロフィーを観に行くだけではそれほど興味は沸かない。例えば、優勝の瞬間が VR の 360 度映像で、臨場感をもって観ることができるミュージアムの事例もある。こういった IT テクノロジーは手段として効果的に活用していく必要があると考える。

また、ロシアワールドカップでは、モスクワのような都市部において、試合観戦者はすべての交通機関の運賃が無料となっていた。そのため、スタジアムだけではなく、観光地など色々なところに行ってみようという気持ちになった。一方、ヴォルゴグラードのような田舎町では、交通機関はあまり整備されていなかったが、試合開催日にシャトルバスを試合前後だけでなく一日中かなりの本数、動かしており、観光施設やファンフェスタなどの主要エリアとの導線をシャトルバスで結ぶことで、スタジアムだけでなく色々なところに足を運ぶ気持ちにさせる仕組みがあった。これらの点から交通機関の整備によるアクセスの充実は非常に重要と考える。

#### 委員

せっかく施設を作る中で、バリアフリーは最新の機能を取り入れていただきたい。障がい者だけでなく、子どもからお年寄りまで対応できる技術や考え方を導入できると良い。実際に様々な当事者を含めた検討ができると良い。せっかく先進的な施設を造るのだから、県下の各地域のバリアフリー整備にも繋がっていくような先進的な整備ができれば良い。

アリーナについて。アンケートにも出てくるが、絶対量的にアリーナが不足している印象があるので、アンケートに沿った検討をして欲しい。

今回の新施設も、ここだけですべてのニーズは網羅できないので、具現化できるものと現状施設で補完し合いさらに「みんなの球技場」として、より多くの方が参加できる場としていく必要がある。

#### 委員

小瀬スポーツ公園は、駅から遠い。この地域でどのように活用するかが重要である。札幌ドームはもともと地域においてよく活用されていた場所に建設したと聞いている。普段使わないところに作った施設では足が遠のく。

小瀬スポーツ公園内で、他の施設とのニーズのすみ分けをし、この場所であったらこういふことができると考えていただけたら良い。アリーナの規模は小さいと感じた。

また、トイレの入口と出口が分かれていたり、男性用と女性用を変更できる工夫もしているスタジアムがある。前例が多くあるので、それも参考としたい。

#### 委員

スポーツクリニクの例では、山梨にマッチするのは高齢者が利用できるクリニック等だと考える。また学生たちが山梨に帰って、「こういうことをしたい」と夢を持てるようなスタジアムにしてほしい。

交通の導線が懸念である。駅から遠いことや車メインであること、県外からのアクセス等が課題である。他地域から来た場合、富士山が見えると山梨らしさを感じる。そんな中、山梨らしさも大事だし、アクセスも大事である。今回リニア新駅の近郊のスタジアムとして、リニアを使う人はどんな人かを考えたい。ビジネスマン、観光客、ワインづくりで通う人。その際の渋滞等のマイナス要素を取り除いていきたい。グラウンドは皆さんに使っていただきたいが、お年寄り、その孫、家族連れ、それぞれのニーズが山梨らしさになると良い。

#### 委員

一つは、清潔で明るく夜も安全な空間にしなければならない。地元の方は慣れているかもしれないが、ナイトゲームのあとの公園内は暗くて歩きづらい。夜もライトアップされ、道も安全で、近隣の方の散歩も気持ち良くできる空間にしなければならない。

二つ目は、地域のアイデンティティーを打ち出したい。ここにしかないものを考えていかなければならない。東京にもあるコンビニ等は反対である。カシマスタジアムのスポーツクリニクの事例では、ここへ行けばアントラーズのチームドクターが診てくれるという価値により、若いアスリートが大勢来ている。

三つ目は、コンサートもできる構造については異議を挟まないが、コンサートをできるようにするためには設計に相当費用がかかる。コンサートの専門家に話を聞くと、ニーズの面で甲府はなかなか難しいエリアと聞く。

#### 委員

現実的な問題として、実際に困っているのが駐車場である。多くの皆様が車を交通手段としているが、来ていただき、駐車場に停められないと、暑いし観るのをやめようか、となってしまう場合がある。またそういったご意見が多々ある。

スタジアムの付帯機能が様々ある中で、駐車場の確保は絶対をお願いしたい。皆様に安心して足を運んでいただくという観点である。山梨の皆さんはマイカーで来られることが標準となっている。予算の問題はあるかと思うが、この点をお願いしたい。

#### 委員

子どもが保護者等の車に乗せてもらえないから来られない場合もあるかと思う。近隣からは自転車でも来られるかもしれないが、少し離れた場所からも、子どもたちだけでも安心して来ることができ、また、家の近くまで送ってもらえる仕組みがあれば、子どもたちもたくさん使うことができる。

附帯機能の充実や、防災の面も含め、親が安心して子供たちを送り出せるスタジアムだと良いと思う。

#### 委員長

各委員よりご意見を伺った。池田さんの話で心に残ったこととして、ピッチはアスリートファースト、またそれを支えるサポーター、ということがある。今回の最上位は県民のニーズである。その意味でも今回のアンケート結果は重要である。これが構想の基本となる。それは忘れてはいけない。

ただしニーズは多様であり、こういった切り口で検討するかということもある。

トップアスリートは附帯機能で何を一番望んでいるか。その点も検討したい。トップアスリートはピッチのみならず附帯施設も使うであろう。トップアスリートから見て、各施設はどのくらい重要度があるのかの視点も付け加えたい。佐久間委員にお聞きしたい。

#### 委員

スタジアムにプロ選手が一番関わるのは試合の日。つまり、会場入りし、着替えて練習し、試合をしてシャワーをして帰る。そのほかに月に何回かは練習で入っても、基本的には試合当日である。

そのため、池田さんのお話にもあったように、ピッチが一番良い状態を求める。選手が一番恐れるのは予期せぬ怪我である。先日も、ドーム型施設においてグラウンドの芝生が滑ったりめくれたりして、選手が足にかなりのダメージを負ったことがあった。やはり、ピッチがまずしっかりしていること、選手がトップパフォーマンスを発揮できる環境が重要である。あのスタジアムでは怪我の可能性があると、思ってしまうと、真剣勝負ができなくなる。

きちんとパフォーマンスが発揮でき、観客の皆様の声が近くて届くという、そういう状況があることが良い。

#### 委員長

将来のトップアスリートであるジュニア選手は何を一番求めるか。

#### 委員

山梨県全体でも体育評価をしている。サッカーだけでなく子どもたち全体の運動能力の

向上の意味では、この施設の中で、発育発達のカリキュラムを取り入れることは、将来のトップアスリート育成という意味で有益であると思う。

#### 委員

トップアスリートが何を求めるかという視点で、山梨学院でも、JOCのエリートアカデミー出身で高校からナショナルトレーニングセンターで寮生活をし、科学的なトレーニングをして大学へ入ってきた学生がおり、彼が言っていたのが、大学に入ってから課題は食事面のサポートがないということであった。大学生であってもアスリートにとっての理想的な食事を取りたいというニーズがある。

また、個人ベースで活躍している選手たちは栄養指導がなかなか受けにくい。スタジアムの一角に何かアドバイザー的機能があっても良いかと思う。また、保護者にもニーズがあるのではないか。

#### 委員長

ありがとうございます。せっかくなので、池田講師からも附帯機能についてコメントをいただきたい。

#### 講師

ヴァンフォーレ専用のショップがあるのは当たり前かと思うが、今のスポーツ全体のキーワードに体幹というのもあり、スポーツ選手の多くは体幹を重要視しているため、何かそれに関連したクリニック、トレーニングする機能があれば良いと思う。

また、欧米で必ずスタジアムにあるのがVIPルーム。VIPルームはあった方が良いと思う。

#### 委員長

VIPルームはもともとあるものとして、外してはいないですね。

#### 委員

VIPラウンジ、VVIPラウンジだけではニーズを満たさないと。これからのスタジアムは、ステイタスをお持ちでない方、招待状をお持ちでない方も購入利用できる施設が必要である。例えば、おじいちゃんのお誕生日にお孫さんがチケットを買い、ラウンジで食事を取りテラスに出て試合をご覧になるといったビジネスラウンジ、スカイボックスという個室等。これはスタジアムの設計に必ず織り込んでいただくことをお願いしており、近いうちにJリーグの基準にも織り込まれる予定である。

委員長

ありがとうございました。貴重なご意見を多くいただきました。

### (3) その他

委員長

7月1日に開催された山梨学院大学のスポーツシンポジウムについて、委員より資料をご用意いただいたので、ご説明いただきたい。

(委員より資料の説明)

委員

シンポジウム当日、会場でアンケートを取り、山梨県で建設されるスタジアムにどのような新たな価値が見出せるかについてお聞きした。かなり皆さん熱心に書いてくださった。こちらはまとめ次第共有させていただきたい。

私を感じたのは、住民が主体的に関わる仕組み作りが重要ということ。官側で完結するのではなく、アイデアを持っている方たちに自由に使っていただけるような仕組みが必要ではないかと感じた。シンポジウムのパネラーからは、サッカービジネス以外のビジネスの事例も多く挙げていただいております、山梨では山梨オリジナルのものができるのではないかと。

その中で、私はシェアワーキングスペースを考えている。美術館で季節展示をするような空間を敢えて作り自由な催しをできるような仕様にしておく。例えば、スポーツバーにしたり、展示をしたり、レストランとなったり、今流行ってきているeスポーツができるようなスペースなどの利用が考えられる。季節で貸し出し、自由に使うことが良い。

また、日本スポーツ産業学会に参加し得た情報として、eスポーツがオリンピック種目になる動きがあり、早くも2024年のフランス大会からという情報もある。アジア大会では今年からオープン種目となっている。茨木国体でも種目入りした。日本ではまだJOCや日本スポーツ協会の正式競技として認められておらず、体制が遅れているが、確実にeスポーツのブームが来ることを考えると、その幅をスタジアムに入れても良いのではないかと感じている。

委員長

ありがとうございました。事務局から何かあるか。

事務局

お配りしている参考資料について説明させていただきたい。7月11日に「広がれ！小瀬

エコスタジアムプロジェクト実行委員会」より、総合球技場建設に向けての提言書をお預かりした。9つの提言のうち、1～7に具体的な施設整備に関する内容が入っている。私どもも可能な限りエコで、エネルギー的にも最先端のものをと考えているので、今後基本計画に反映させていきたい。お時間あるときにご一読いただきたい。

委員長

こちらの提言書をいただいたので、今後の議論の参考としていきたい。

## 6 閉会

委員長

以上で本日の議事は終了とさせていただきます。長時間にわたりご議論ありがとうございました。重ねて、池田講師には貴重なお話をいただきありがとうございました。

事務局

進行ありがとうございました。次回の開催につきましては現在調整中のため、改めてご連絡させていただきたい。以上をもちまして本日の委員会を終了とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

以上